

(様式第 11 号) (第 14 条関係)

2019 年度 「みんなの力でつくるまち」活動支援事業評価報告書

事業名	文楽の世界に触れる
団体名 (連絡先)	文楽伝統芸能振興長野委員会
総事業費	561,086 円 (うち補助金: 250,000 円)

事業内容

ユネスコ無形文化遺産に登録されている日本の伝統芸能「瓶業浄瑠璃・文楽」に触れる機会を町内の小学校で備え、体感として日本の伝統文化を学んでもらった。またプロの伝統芸能従事者の姿勢や姿に触れ、子ども達自身の進路についても考えるきっかけを創設した。文化的な地域づくりの一助となるため、福祉施設で慰問公演を行い、施設利用者に心豊かな時間を過ごしてもらえた。2019 年度実施箇所は軽井沢東部小学校、軽井沢西部小学校、軽井沢中部小学校、軽井沢敬老園。



【東部小学校での体験の様子】

事業効果

軽井沢町内 3 つの小学校で文楽の鑑賞と体験教室を行った。東部と西部では 6 年生を対象に実施し、ちょうど 2 学期の最初に社会科の授業で習う近松門左衛門や江戸時代の文化などの学習項目ともタイミングが重なり、学習面での効果も大きいと感じた。また技芸員らへの積極的な質問も見られ、キャリア教育としての意味もある活動であったと思う。中部小学校は今年の 6 年生が昨年度に既に文楽教室を体験したことから、今年も 5 年生での実施となったが、伝統文化への関心を持ってもらえた。

【目標・ねらい】

- 地域の子ども達に伝統芸能に触れる機会を設ける。
- プロの伝統芸能従事者の姿や精神に触れ、子ども達自身の将来や進路を考えるキャリア教育の一助となる。
- 福祉施設等の慰問公演を行い、文化的に豊かな地域づくりに貢献する

自己評価(目標達成率)【 A 】

今後の取り組み

この 3 年間、軽井沢町の 3 つの小学校では 5 年生もしくは 6 年生を対象に、この文楽鑑賞・体験教室を開催してきたことで、学校側としても恒例の学習行事として認識をしてもらっており、学事日程にもスムーズに組み込んでもらっている。引き続き活動を継続し、来年以降も同様の学習行事として学校で実施してもらえようようにしたい。また長年活動を続けてきたことにより、地元企業からの協賛金も頂きやすくなってきている。来年度以降も助成金等を活用しながら、協賛企業・個人協力者などを増やし、完全な自立への道筋を付けていきたいと考えている。

※自己評価欄は「A」90%以上「B」70~89%「C」50~69%「D」49%以下で示すこと。